

5/3 木

日本国憲法が一〇四年五月三日  
に施行されました。75年を迎  
ました。トジア諸国民と日本国民  
に甚大な犠牲をもたらした侵略戰  
争の深い反省の上に憲法は制定  
されました。前文で「政府の行為  
によつて再び戰争の惨禍が起る」  
とのないやうにする」と決意し  
て、戦争放棄・武力不保持を掲  
げておはす。ロシアのウクライナ  
侵略という露義によって第2次世  
界大戦後の國際秩序が大きく揺ら  
ぐ中、75年前に日本が世界に向か  
って発信した平和主義の原點を立  
ち返り、改憲を許さず憲法を守り  
生かす取り組みを強めることが一  
層重要になつています。

憲法学者の記した覚悟

戦後日本を代表する憲法学者の

## 主張

憲法施行75年

一人、西部眞一・東京大学名誉教授  
授(一九二〇~八〇年)が、憲法公  
布(四八年一月三日)直後に執筆し  
た論文「新憲法じわらの覚悟」が  
昨年、見つかりました。同氏の  
出身地・長野県駒ヶ根市内の農家  
の土蔵に保管されていたことを信  
頼毎日新聞(昭和二年一月三日付)が  
報じています。

がつて新憲法の成績は、「にかか  
つて國民の實質である」。西部氏は東大入學直後に学徒動  
員され、敗戦後は郷里で過りました。四八年秋に復学しました。論文はその  
頃のもので、新憲法を國民が主体  
となって生かす努力が欠かせない  
点を繰り返し強調しています。

がつて新憲法の成績は、「にかか  
つて國民の實質である」。西部氏は東大入學直後に学徒動  
員され、敗戦後は郷里で過りました。四八年秋に復学しました。論文はその  
頃のもので、新憲法を國民が主体  
となって生かす努力が欠かせない  
点を繰り返し強調しています。

## 今こそ9条の力を生かす時だ

「女の勇婦」発尾も報じ、雑誌  
『世界』が今年「史蹟」論文の全  
文を初めて掲載しました。

「(國民の眞務は)」の憲法を  
生かすことを真剣に考える」や  
ある。そしてそれは我々の『主体  
的意識の覺醒』の一語たりもゆく  
「誠に平和日本の建設の成程した

意識にあつたのは、戦前のドイ  
ツです。民主的で先進的とされた  
ロシアのウクライナ侵略に乘じ  
加することを許さず、自衛隊は一人の  
世論と運動は、日本が直接戦闘行為に參  
加することを許さず、自衛隊は一人の

「全世界の國民が、ひとしく恐  
怖と恥恥から免かれ、平和のうち  
に生存する権利を有することを確  
認する」。憲法前文の一節は、世界  
が大きな岐路にあるだからこそ  
心に刻みたい言葉です。二つの世  
界大戦の惨禍を経てつぶれた國  
際主義に基づく平和秩序を回復す  
るために、日本は役割を果たさな  
いではありません。憲法前文のめ  
でたす「眞理を眞剣に考へる」の道  
は、歴史的の眞理を眞剣に考へる道  
です。國家間の争いを絶対に戦争  
けて力をつくす時です。